

大阪経済大学経営学部教授会議事録 (03-06)

- I. 日時
II. 場所
III. 出席者

2003年4月6日(金) 14:25 ~17:45 (16:25~17:25 中断)

本館第2会議室

経営学部長他 計17名

出欠表

出席	青水 司	○	池野 星男	○	伊藤 正之
欠	伊藤 裕人	○	今西 宏次	○	朴 孝 順
○	北村 賢	○	大木 潤	○	藤嶋 肇
○	後藤 一郎	■	上岡 正行	○	吉垣 真
○	鈴木 隆	○	林田 修		
○	二宮 正可	○	樋口 克次		
○	本田 良巳	○	山田 文明		
○	吉井 康雄				
○	渡辺 大介				

【教授】9名 【助教授】3名 【講師】4名

【合計】20名 (出席者11名・休職1名) (定員数) 18名

IV. 議題

1. 教務に関する件
2. 入試に関する件
3. 学生部に関する件
4. 人事に関する件
5. 新学科について【経営】
6. 大学院の設置について【人間科学】
7. カリキュラムについて
8. その他

5. 人事に関する件《北村学部長》

(1) 経営分野の教員採用について《林田審査委員長》

経営分野の審査委員会から最終審査対象者の履歴書が配布（事後回収）され、審査委員長から論文審査報告があった後、投票で採用の可否を決定した。

①【国際経営論・アジア企業論】について《林田審査委員長》

推薦予定者から本学の定年退職の年齢を理由に辞退の申し出があり、現在確認中であるとの報告があった。

②【中小企業論・日本経営史】について《林田審査委員長》

当該科目の最終審査候補者がいなかったことについて説明があった。当初の推薦予定者は面接、プレゼンテーションが芳しくなく、今回の結論に至ったとの報告があった。

③【ベンチャービジネス論・市場戦略論】担当者の採用について《二宮審査委員長》

6月4日の研究報告会の後、審査委員会で検討した結果、太田一樹氏をベンチャービジネス論等担当者に推薦したいとして、二宮正司、林田修、樋口克次、各審査委員を代表し二宮審査委員長から審査論文一点づつについて講評があり、専任教員として適格であると判断した旨報告された。その後、在席者16名に白紙投票用紙を配布し「可・否」を記入する方式で投票に入った。投票終了後、山田文明、吉坂実、藤嶋肇の3氏によって開票ならびに集計作業を行った。結果、ベンチャービジネス論について「可」とする者が14票、「否」とする者1票、無効1票だったので、教授会として太田一樹氏をベンチャービジネス論等の担当として採用することを決定した（就任予定日：2004年4月1日付）。続いて、太田一樹氏を教授とすることを出席している教授に語り、異議なく承認した。

◇3名の面接を行ったが、本台氏から辞退したい旨連絡があった。定年が67歳であれば再度就職活動をしなくてはならないというのが理由である。特任条件の説明は、副学部長、人事部長と共に行ったが、従来の仕組みでいけば67歳から特任となる可能性もあるので、結論を持ってもらっている。

・前回教授会の審可可否で可となった3名について面接を行ったが、本台氏については業績審査を中止している。残りの2名のうち1名については、業績審査をまだ行っていないが面接、プレゼンの内容が芳しくなく、その結果、審査委員全員一致で推薦しないことを決定した。残りの太田氏について可否をお願いしたい。残りの採用枠3名の内1名は◎人事として来年度に伸ばしたい。残り2名は再度公募を行い9月申請に間に合うようにしたい。今回は大学院担当の明記は外す。

・本台氏が了承すれば論文審査に入るのか。

・募集科目は多数の方が応募できる科目名称としたい。有望な候補者があれば残すが、現状の応募書に学部長名で返事を送る作業に入りたい。

◇本台氏の特任枠については、来年も含めて検討したい。残りの2名の枠はカリキュラム委員会で決定し大学院担当に絞らず募集に入る。また、これまでに集まった書類の中からも1～2名は候補を残しても良いこととする。

・新しい科目であれば、審査委員会も新しくするべきでは。

・採用人事の審査方法を変更することを、前々回の教授会で文章化するとしていた。経営学部のルールとして内規作りをお願いしたい。

◇全員で投票し、職位については当該単位以上で初定する。この間の経過など文章に纏めたい。

・カリキュラム委員会で公募科目を決定する際、経営学部の科目の充実が何かを検討して欲しい。

・本台氏について例外扱いほしなくて欲しい。

・太田氏について、科学研究費、民間助成など実績もあり、教育面でも資格取得講座、営業マン向けの実践講座など多岐にわたる業績があり、人脈も豊富である。研究、教育の両面で教授として採用す

るのに相応しいと考える。

・ベンチャービジネス論よりマーケティング論ではないか。ベンチャービジネス論で何を求めているのか、どういうことを学生にアピールしたいのかははっきりしておくべき。

・太田氏の推薦は審査委員会からの提案ではないのか。

・担当科目のレベルでの調整はありうる。かなりの戦力になる方だと思う。

・マーケティングというより中小企業論ではないか。ベンチャーを中小企業と捉えるのであればいいのではないか。

・大学院の科目としての採用ではないのか。

◇大学院の科目はまだ何も纏まっていない。

(2) 新設科目の公募について

教授会を一時中断し、カリキュラム委員会を開き新たな公募科目を検討した結果、「現代企業戦略論」「流通政策論」「経営分析論」の3科目について、採用枠2名で公募を開始するとの提案があり承認した。(中断は14:25~17:25)

◇29名の体制の割り振りは、ビジネス法学科11名、経営学科13名、2部経営学科5名となる。協定の恒定化で定員200名となる経営学科に必要な専任教員数は12名である。経営学科についても専任教員の貼り付けの書類が必要となってくる。

・若手で2名採用なので充分満足のいく人事を実施したい。

・公募科目だが、「現代企業経営論」「流通政策論」「経営分析」で如何か。

・戦略論を中心にしたという初めの議論があったはずである。

・経営学部の顔が見えてこない。

6. 新学科に関する件《北村学部長》

(1) 新学科の専任教員について

新学科を担当する専任教員について報告があった。

◇ビジネス法学科は経営学士で届け出る。専任教員は、青水、北村、本田、今西、大木、山田、藤嶋、吉坂、唐澤、木村、三井の11名とし、新任の津田氏は経営学科の配属としたい。

(2) 科目担当について

経営分野の科目担当者については、前回教授会で配付した科目担当者表を基に、届出に必要な書類を作成したいとの報告があった。

・2部の貼り付けについてはどうなるのか。

◇6名必要だが、従来から特定の方が貼りついていた訳ではない。現在は、教養の先生2名と経営から3名が貼り付いている。

・2部の情報管理論を担当しているが、来年度から担当しないので貼り付けないで欲しい。

◇2部の科目を持たない人は貼り付かないのではないか。2部への貼り付けは、毎年、調査に届け出る上で、学務課で行っており、連絡協議会にも出されている。新学科に移る人は貼り付けられないので1部経営学科からとなる。

・2部を担当しない方は明示しておいた方がよい。

7. カリキュラムについて《北村学部長》

特に議題なし。

8. その他

(1) 国際交流委員会報告《本田国際交流委員》

① 配付資料に基づき、国際交流会館の「入居期間」と「使用料」の変更に伴う「大阪経済大学国際交